

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」  
領域開拓プログラム最終評価結果表

課題	D：行動・認知・神経科学の方法を用いた、人文学・社会科学の新たな展開
研究テーマ名	社会心理学・神経科学・内分泌学の連携による文化差の遺伝的基盤の解明
研究代表者	石井 敬子
所属機関・部局・職	名古屋大学・大学院情報学研究科・准教授
研究成果の総合評点：S	
研究成果に係る所見	
<p>人文学や社会科学の諸問題に通底する「文化」という要素を理解するために、文理融合により、文化的遺伝子の解明を目指した研究を行った。西洋・東洋の文化差を含む広範な文化差の起源を説明するため、日本とカナダで約 800 名に対し網羅的行動バッテリーテストを実施し、自己観、認知特性、さまざまな行動傾向、個人の知能や性格、幼少時の養育環境等の環境要因に関するデータセットを得て、国際的に評価されるような様々な研究成果を出している。人間は社会という集団のなかで生き、そこで継承されてきた文化を共有する生物であることを考えると、その文化的遺伝子の解明に関して、7年間にわたって延長継続して共同研究が進められ、大きな成果を収め、新たな領域を開拓した功績を高く評価できる。今後の人文学・社会科学における「文化」の研究に対して与える影響は少なくないと思われる。</p>	

※ 「研究成果の総合評点」に対する標語は下記のとおり。

- S. 研究目的に照らして、期待以上の成果があった
- A. 研究目的に照らして、期待どおりの成果があった
- B. 研究目的に照らして、期待どおりではないが一定の成果があった
- C. 研究目的に照らして、十分な成果があったとは言い難い